

テーマ：「まとゐの心」

——団居…まとゐ、とは親しく集まることを表現する日本のことば

ホスト：大阪イブニング・ロータリークラブ

日時：2010年4月10日（土） 13：30～15：00

場所：大阪国際交流センター

参加クラブ：大阪阿倍野 大阪阪南 大阪平野 大阪城南 大阪咲州
大阪住之江 大阪住吉 大阪天王寺 大阪東南 大阪イブニング

出席者数：189名（登録会員数329名）

講演者：平岩弓枝（直木賞作家）

パネルディスカッション：

テーマ：「これからのロータリーを考える」——なぜ私たちは集まっているのか——

指導者 神崎 茂（大阪西） 司会 藤江 正謹

パネリスト：畑田 豊（大阪城南） 辻川 圭乃（大阪阿倍野） 西野 博子（大阪イブニング）

会長

宇野 能史

（大阪イブニングRC）

IM実行委員長

藤江 正謹

（大阪イブニングRC）

265年の長期安定政権を維持した江戸幕府と世界一の大都市を築き、平和を保った江戸町民の知恵は、我々ロータリアンとして参考になる点が多いように思われます。また、神崎PGは、商取引は「売り手よし、買い手よし、世間よし」という近江商人の「三方よし」の理念、つまり、取引は当事者同士だけでなく、世間のためになるものでなければならないということで、それはシェルドンの「He profits most who serves best」に通

じるものであり、ロータリーの理念と密接に関係するところ、と指摘されています。

私どもが「まとゐの心」をテーマとして選んだのは、今日の閉塞感漂う社会情勢の中で「なぜ自分たちはロータリー活動に参加しているのか」を問い直そうとしたからで、前段の講演会の話者に平岩弓枝氏をお招きしようと考えたのは、神崎PGが常々「江戸時代の商人道にロータリアンの学ぶべきことが多くある。」と仰っている事を踏



まえ、江戸時代を語れる話者を尋ねた結果でした。大谷Gからも、江戸時代の商人道を学ぼうとする今回の企画に期待を込めたご挨拶文を戴きました。

直木賞作家平岩弓枝氏には、「江戸の人情、まとゐの心」という題で、ご講演をお願いしましたが、徳川幕府第11代将軍家斉の55人いた側室の子の1人、明石の大名になった殿様（斉宣（なりこと））が中山道を通って参勤交代の行列を歩いていた折、何も分からぬ4歳の子が大名行列の前を横切ったのを、掟に従って殺してしまった、という実話に基づいた事件を取り上げられました。

この事件に対し、地元の大名や奉行所の者は、その非情さと横暴な振る舞いを憎み、被害家族を哀れみ、馬鹿殿の行列が尾張の国を通過するのを禁止してしまった、という人情味あふれる話をされ、江戸幕府の御政道は杓子定規でなく、人々の「まとゐの心」を大切にし、それを壊そうとするものを排除するものであった、とお話しされました。

この後のパネル・ディスカッション（PD）では、神崎PGにPDのテーマの提案をお願いし、パネリストは、畑田 豊（大阪城南）、辻川圭乃（大阪阿倍野）、西野博子（大阪イブニング）の3名の方々にお願いしました。畑田氏は大阪商人として家訓や家業に関する提言、西野氏は教育者としての立場から、世代による価値観の変容についての提言、辻川氏は司法の立場から現代社会が抱える問題とロータリーの役割についての提言がありました。司会者は十分な発言が終る前に予定時間を超過し、会場との十分なディスカッションはできませんでしたが、話し尽きないこの話題に、「これこそがいつまでも自分たちがまとゐを続ける理由である」と結論しました。総括は藤田誠一郎GAにお願いしました。その後、閉会式に入り、次年度IMホストクラブの紹介とHCの挨拶が行なわれました。終了後の懇親会には、多数の皆さんが参加され、にぎやかな親睦の会となりました。

ご参加の皆さんのお陰で、たいへん実り多い会になったのではないかと思います。

